

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年11月12日

【評価実施概要】

事業所番号	4078100114
法人名	有限会社 フリーウィル
事業所名	グループホームこよみ
所在地 (電話番号)	八女郡黒木町大字本分1405番地 (電話)0943-42-4516
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成 19年 10月 16日

【情報提供票より】(平成 19年 9月 28日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	13人, 非常勤 4人, 常勤換算 17人

(2)建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) / 改築
建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,500 円	その他の経費	有	
敷 金	(有) 50,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,100 円			

(4)利用者の概要(平成 19年 9月 28日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	今村循環器科内科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、いくつかの施設を経験し、認知症の方により良いケアをしていきたいとの思いから、地域の中に建設された。木造づくりでホーム周辺には自然が豊かに残っており、食堂兼居間の前面のガラス戸からウッドデッキにつながっており、人の往来や景色が見渡せ、季節の移り変わりを感じる事が出来る。ホーム間はウッドデッキでつながり、利用者は自由に行き来ができる。地域の方達の朝夕の行き来時にはお互いに挨拶が交わされ、全職員は、地域の中でふつうに暮らすということを日々のケアに取り組み穏やかな生活を支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果をふまえ、書類の整備及び入居者個人の情報を職員がいつでも確認できる場所に置き、情報の取り扱いも注意を払っている。一つひとつの改善に向けて取り組んでいる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価のねらいと目的・意義を再認識しながら日々の生活の中での気づきや十分でない箇所の確認等、話し合いながら取り組んでいる。運営推進会議の中でも取り上げて改善項目の確認などを行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、町職員、民生委員、隣組長等から参加いただき、おおむね2~3ヶ月に1回開催している。ホームの様子をお伝えしたり出席者からいただいた質問や意見に応じている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	暮らしぶりや健康状態は家族来訪時にお話している。行事や日常生活のホームでの様子の写真を個人毎にファイリングし、来訪時に見ていただきながら会話の中で意見や要望を聞き出すようにしている。金銭管理についても毎月報告をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	一歩外へ出れば農作業等地域の人達が行きかう場所にあり、挨拶を交わし家で収穫した野菜等も持って来ていただく。又、町全体が小さい為少し離れた店で買い物しても、誰かが顔見知りで挨拶が交わされている。地元の小学生の体験学習受け入れや地域の行事に利用者とともに参加したり、民生委員の集まりの場で認知症やホームの役割等について勉強会を行っている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自由意思・自由選択」と理念を掲げている。地域の中で自分らしく自由に生きるという意味が込められており、家庭的な環境と地域住民との交流の下で暮らしていただけるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝えている。月1回の職員会議では、理念に必ず触れ、職員全員で話し合い、具体的なケアについても話し合いをしている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の小学生の体験学習受け入れ、年1回の福祉フェスティバル、地域の夏祭りに参加している。食材購入のために週2回程、町内の店に買い物に出かけたり、外に出た時は行きかう方と挨拶を交わしている。また、認知症やグループホームについて理解してもらうために、民生委員の集まりに参加し説明を行った。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義、目的を理解しており全職員で話し合いながら自己評価を作成している。昨年の外部評価の結果をふまえて全職員で改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町職員、民生委員、隣組長等に出席して頂き前回の評価への改善点や事業所の取り組み報告や意見交換を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場から実習や見学の依頼を受けることも多く、受け入れることで他者からの視線を感じるようにし、意見の交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	月1回の職員会議の中で成年後見制度等についての勉強会を行っている。また、入居された方に成年後見制度の希望があり説明等を行った。結果的に制度利用にはならなかったが、活用できるように支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の行事予定や献立、健康状態や金銭の取り扱い等、月1回の利用料支払いの時に報告し、行事や日常のホームでの様子を写真にとり、入居者一人ずつフェイスコメントをつけたり等して面会時にお話している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等で出来るだけ意見や要望を聞くようにしている。中には細かいところまで希望される方もあるので、その都度記録し話し合いながら対応している。玄関には意見箱も設置している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。新しい職員が入る場合も、利用者にきちんと紹介し、顔馴染みの関係ができるまでは、勤務も新人一人になるような組み方はしないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別を問わず、十分説明したうえで採用している。事業所で働く職員には、業務や行事等の担当を決め一人ひとりが、やりがいを持って気持ちよく仕事出来るように努めている。また、基準以上の職員を配置し、職員一人ひとりが社会参加できるような体制をつくっている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者に接する際の言葉の大切さを常に意識している。毎月の職員会議等で人権について勉強をしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内については全員に紹介している。スタッフ会議の中で勉強会をしたり、月一回のグループホーム部会の研修会に参加している。	○	スタッフ一人ひとりに課題を与え、その課題について報告をして全職員で質を上げていきたいとのことで、今後のさらなる取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム部会の会議に参加し研修会等を行っている。ホームの視察会や実習や見学の受け入れを行い、よりよい質の向上に取り組んでいる。</p>		
<p>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入院の方には職員が何度も訪問したり、事前に家族と一緒に遊びに来ていただいている。希望があれば体験入居をしていただき十分に検討したうえで利用開始に移行している。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理方法や昔からの出来事等入居者から学ぶことも多く、たまたま職員が茶碗を割ったりすると「形あるものは必ずくずれるもの」と慰めの言葉をもらう時もある。</p>		
<p>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居に際し、入居者・家族から面談をし、これまでの生活歴・趣味をお聞きしたうえで、「センター方式」を活用し日々の生活の会話の中で「ホームでどのように暮らしたいか」「どのような事を希望されるか」など、入居者の思いをケアしながら意向の把握に努めている。また、思いをうまく伝えられない方には日々の行動や表情から思いをくみ取っている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者・家族の希望や思い、病院からの指示などを聞き取り全職員で十分に話し合い、それぞれの意見が反映された介護計画の作成に取り組んでいる。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月一回のケア会議を開き職員の意見や入居者・家族の思いを計画に反映させている。状態変化があった場合には、計画の見直し・検討を行い現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望や状況に応じて、受診の送迎や入院時の見舞い、洗濯物の持ち帰りを支援している。希望があれば家族の宿泊受け入れ・特別な外出支援を行っている。		
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際して、かかりつけ医を確認し、希望があれば入居前からの医療機関を継続していただいているが、現在はほとんどの方がホームの担当医にされており、緊急時の対応や普段の受診に際しての連携が取りやすい。また、1/2Wの住診や休診日でも状態が悪化されている方があれば24時間の対応もできており、家族にも状態や薬の内容が変わった場合には報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居に際して、看取りに関しての説明やアンケートにより家族・本人の意向を確認している。現在もターミナルの状態の方を医師との連携にて対応している。また、これまでも看取りの実績があり、その時には他の入居者の方も含めて看取った経緯もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の希望により方言で話しかけたり、一人ひとりに合わせた対応を行っている。個人情報の取り扱いについては専用のボックスに保管し対応の徹底を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズム保っていただくために、一日の流れ、月単位の予定(外出・おやつ作り等)は決めているが、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、本人が心地良いと思える過ごし方を支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物から調理・片付けに至るまで利用者同士がそれぞれの得意分野で職員と一緒にやっている。利用者と職員が会話を楽しみながら、同じテーブルを囲んで同じものを食べている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日沸かしており、希望があれば毎日入っていただく。時間をかけてゆっくりと入れられる方があり、その方にはこまめに声かけし必要な介助に入るようにしている。入浴を拒む人に対しては、足浴と顔の清拭を行いその時に更衣をしていただく。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干したりたたんだり、食事の後片付けやお茶碗拭きなど無理強いとにならないように、一人一人に役割を持って暮らしていただけるよう機会づくりをしている。楽しみごととして入居者の趣味につながるような事にもいろいろ取り組んでみたが、逆効果となったような経緯があり今のところ食事や外出をする事が気分転換につながっている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月間行事にあげて月に2回おやつを持参して2時間程度の外出を行うようにしているが、それ以外の外出の機会がほとんど作られていない。	○	月間行事の中での定期的な外出支援に加え、近所のスーパーへの買い物等には行かれてあるが、入居者の方に応じた外出ができていないとの事であり、自然に囲まれた環境の良いところでもあり、季節の風が感じられるような外出支援ができるよう今後の取組みに期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は戸締りをしているが、日中玄関は施錠はしていない。玄関には人の出入りに反応してチャイムが鳴るようなセンサーを設置している。但し、不穏状態の方が玄関先へ出られるような気配があった場合に限り、事故防止もあり正門を施錠することがある。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署からの指導を受け避難訓練を行っており、避難場所も確保している。停電した場合にも自家発電があり、以前3日程停電した場合にも対応できた。	○	これまで避難訓練は実施してきたが、地震や水対策のシュミレーションをし、必要物品等のリストを作成し準備する事も期待したい。また、訓練に近所の方に参加していただくなど、地域の協力体制の強化にも取り組んでいって欲しい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分ともに、摂取量を把握・記録している。食事摂取量が少ない方については高カロリー食を水分補給時に飲んでいただくようにしている。ホームに栄養士がいないので、年1回他市の病院の管理栄養士の方にチェックして貰うようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気や壁の色にも気を配り、広い窓を開ければ風通しもよく、採光も適度に取り入れ、遠くの山々や田んぼなどの自然が見渡せ、季節を見て感じる事ができる。特に北館と南館をつなぐウッドデッキが広く取られており、そこでの入居者同士の行き来も自由にできおしゃべりも楽しむことができる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはエアコン以外の備え付けはなく、何でも自由に持ち込んでいただけるようになっている。家族の方が来所時に一緒に食事ができるようテーブルと椅子を持ち込まれたり、仏壇を置いておられる方もいる。全体的にシンプルであるが、安心して過ごせる場所となるように配慮している。</p>		